

「共和党の変化」から読むアメリカ政治  
—保守主義運動と連邦議会—

2005年7月9日

報告者；社団法人アジアフォーラム・ジャパン

吉原欽一

—はじめに—

・ヒラリー上院議員の危機感

2002年中間選挙後 ⇨ 「民主党版ヘリテージ財団」の創設

2004年大統領選挙後⇨宗教勢力へのアプローチ

1. なぜ、リベラルは1990年代の保守の台頭を見誤ったのか

- ①アメリカ保守主義の「特異性」
- ②保守主義運動と共和党との関係

2. アメリカの保守主義運動と「共和党の変化」

- ①「思想の季節」から「運動の季節」
- ②「ニューライト」と「共和党の変化」—1970年代
  - ⇨「運動体」としての「アメリカの保守」
  - ・1972年 ヘリテージ財団の設立
  - ・1973年1月「ロウ判決」
  - ・1974年8月「ロックフェラー副大統領」の登場
- ③「ニューライト」四天王の積極的な保守運動の展開
  - ⇨ P. ワイリック、R. ビゲリー、H. フィリップス、T. ドーラン
- ④なぜ、「ニューライト」は「宗教保守」を取り込むことができたのか
  - ・「ニューライト」と社会問題
  - ⇨ポピュリズム運動とグラスルーツ運動
    - ・「社会保守」と「宗教保守」の連携⇨「モラル・マジョリティ」
    - ・「象徴的統合」としてのレーガンの大統領選勝利（1980年）
- ⑤「第2世代ニューライト」の登場—1980年代～
  - ・ギングリッチと下院議会共和党COS（保守的機会の社会）グループの結成、
  - ⇨下院議会共和党多数党体制に向けて1994年中間選挙に焦点を合わせる
    - ・「共和党再生のシナリオ」
    - ・1992年ペロー・ボーターと1994年中間選挙
    - ・COSの政策アジェンダをベースに「アメリカとの契約」を作成
    - ・「アメリカとの契約」と「アメリカの家族との契約」（クリスチャン・コアリション）

### 3. 「共和党の変化」と現代アメリカ政治

#### (1) 「共和党の変化」についての認識

- ・「利益的統合」としての連邦下院議会

#### (2) 1994年以降の共和党の特徴と構造変化

##### ①特徴

- ・保守主義的性格…「レーガン主義」
- ・支持基盤…スモール・ビジネス、反増税団体、宗教保守、etc.

##### ②権力構造の変化…「ギングリッチ革命」

- ・第104議会（94-96年）のギングリッチによる革命的な議会改革が下院議会の政策決定過程に極めて大きな影響力を及ぼした。
- ・「アメリカとの契約」と立法過程の変革…常任委員会の権限の低下と共和党下院議会指導部の権限の拡大
- ・「ロビー法」の改正(1996年1月)…「グラスルーツ・ロビイング」の顕在化

#### (3) 第一期ブッシュ政権を見る眼

##### ①「ホワイトハウス」・「共和党多数議会」・「グラスルーツ」との有機的連携

##### ②シンクタンク及びアドボカシー団体（501c3団体-501c4団体など）とステルスPAC（現在の527団体）との有機的連携

⇒「グラスルーツ・ポリティクス(grass-roots-politics)」

##### ③ホワイトハウスと共和党議会の連携（特に共和党下院議会指導部との連携）

- ・下院議会共和党とホワイトハウスとの結び目  
…コックス前政策委員会委員長とチェイニー副大統領との政策的連携  
…下院議会共和党政策委員会 (Republican House Policy Committee-HPC)

##### ④ホワイトハウスとグラスルーツ・コアリション(grass-roots coalition)との連携

- ・グラスルーツとホワイトハウスとの結び目  
…ノーキスト(全米税制改革協議会会長)とローヴ大統領シニア・アドバイザー（現在、次席補佐官）との連携  
…「水曜会(Wednesday Meeting)」

(参考) 第一期ブッシュ大統領をめぐるKey Person

- ① ディック・チェイニー副大統領
  - ・「首相的副大統領」
  - ・“The Deal Closer”
- ② トム・ディレイ下院議会共和党院内総務
  - ・アメリカ連邦下院議会史上「最強」の院内総務
  - ・ノーキストと共に「K-street Project」を断行
  - ・民主党の牙城であった「K-street」の奪還に成功
    - ⇒「ロビイスト」の変化
    - ⇒ジャック・アブラモフ（現代アメリカ政治における「スーパー・ロビイスト」）
- ③ クリストファー・コックス前下院議会共和政策委員会委員長
  - ・共和党随一の政策通であり、内政・外政を通じての政策形成の要
- ③ カール・ローヴ大統領シニア・アドバイザー(現在、次席補佐官)
  - ・ブッシュ大統領が最も頼りにする側近中の側近
- ④ グローバー・ノーキスト全米税制改革協議会会長
  - ・「水曜会」を通じてグラスルーツ・ポリティックスの「中枢神経」的存在

## 2008 年を視野に入れた米国民衆の動向

中山俊宏

参考文献： 久保文明編『米国民衆—2008 年政権奪回への課題』（日本国際問題研究所、2005 年）

### 1. 主要文献から読む民主党の動向

John B. Judis and Ruy Teixeira, *The Emerging Democratic Majority* (New York: Scribner, 2002)

Thomas Frank, *What's the Matter with Kansas?: How Conservatives Won the Heart of America* (New York: Metropolitan, 2004)

Jim Wallis, *God's Politics: Why the Right Gets It Wrong and the Left Doesn't Get it* (San Francisco: Harper San Francisco, 2005)

Dennis Loy Johnson and Valerie Merians, *What We Do Now* (New Jersey: Melville House, 2004)

Byron York, *The Vast Left Wing Conspiracy* (New York: Crown Forum, 2005)

Matt Bai, "Notion Building," *New York Times Magazine*, October 12, 2003

Matt Bai, "Wiring the Vast Left-Wing Conspiracy," *New York Times Magazine*, July 25, 2004

Peter Beinart, "A Fighting Faith," *New Republic*, December 13, 2004

Matt Bai, "The New Boss," *New York Times Magazine*, January 30, 2005

Jason Zengerle, "Talking Back," *New Republic*, February 16, 2004

Robert B. Reich, "Story Time," *New Republic*, March 28, 2005

Jonathan Chait, "The Case Against New Ideas," *New Republic*, July 11 & 18, 2005

### 2. 2004 年の選挙を民主党はどう受け止めたか

- 共和党の圧勝か、接戦か？
- メッセージ（アイディア・ギャップ）か、テクニック（インフラ・ギャップ）か？
- リベラル派、中道穏健派、リパブクラット／デモパブリカンの受け止め方
- グラスルーツの受け止め方

- 共和党、保守派の受け止め方（リチャード・ビゲリー、ヨーク等）
- 定着しつつある一般的な受け止め方（メディア含む）

### 3. 民主党の新しい政治インフラ

- 活気づくりベラル派： ディーン DNC 委員長、ムーヴ・オン、アメリカ・カミング・トゥゲザー（ACT）、ソロス・マネー、ムーア・デモクラット、ゲリラ・ドキュメンタリー（ロバート・グリーンウォルド）、エア・アメリカ
- 労働組合： SEIU を中心とした動き、AFL-CIO の分裂？
- 民主党版ヘリテージ財団の設立： アメリカ進歩センター（ジョン・ポDESTA）
- 新しい民主党系パワーハウス： アメリカ法廷弁護士協会（ATLA）
- 「The Vast Left Wing Conspiracy」か？
- 新しいインフラの体力・持続力は？527 団体は今後どのように規正されるのか？

### 4. 重要案件に対する民主党の姿勢

- リード上院民主党院内総務、ペロシ下院民主党院内総務、ディーン DNC 委員長
- 最高裁判事、フィリバスター
- 宗教： 中絶、ステム・セル研究、「church-state」問題、同性婚、貧困
- 安全保障： ボルトン、イラク、「対テロ戦争」、テロリストの扱い（グアンタナモ）
- 市民的自由
- 社会保障政策
- 減税、「starve the beast」論、財政赤字、

### 5. 2008 年に向けた動き

- 2006 年中間選挙
- 民主党主要候補？： クリントン、エドワーズ、ウォーナー、バイ、ケリー、リチャードソン、ヴィルサック、バイデン、クラーク、ゴア
- 共和党主要候補？： アレン、マッケイン、フリスト、ジュリアーニ、ロムネー、バーバー、ブッシュ、ライス、ヘーゲル、パタキ
- 主要争点？
- ブッシュ政権の目論み： 共和党の「パーマネント・マジョリティ化」／民主党にとっての最後の砦である最高裁に保守派の判事を送り込むこと／保守革命の完遂

6. 現在の民主党になにが欠けているのか？

- 攻勢か、適応か？
- 宗教的価値か、世俗的価値か？それとも新たな宗教的な言説の組み立てか？
- 「マクガバン的なもの」の呪縛からいかに逃れるか？
- 問題なのは本当に「アイディア」の欠如なのか？民主党は党をひとつにまとめあげる「イデオロギー」を必要としているのか？

(以上)